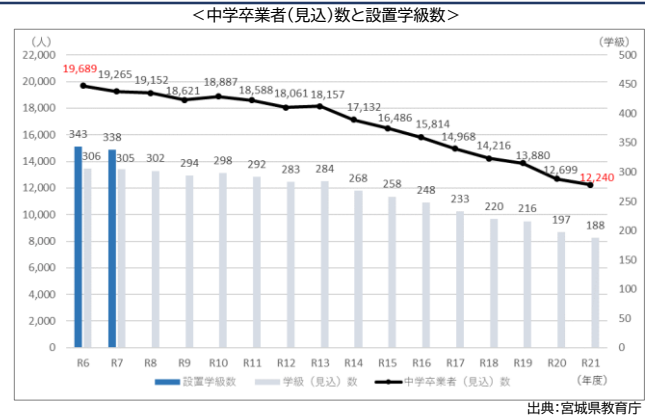


## 第1章 新たな県立高校将来構想の策定について

### ▶ 策定の趣旨

- 急速な少子化の進行
  - ・中学校卒業生(見込)数  
R6:19,689人 ⇒ R21:12,240人  
(▲7,449人、▲37.8%)
  - ・全日制公立高校の学級(見込)数  
R6:343学級 ⇒ R21:188学級  
(▲155学級、▲45.2%)



※令和8年度から所得制限のない高校授業料無償化が始まる見通しであり、私立高校への進学者数が増え、公立高校の学級(見込)数がさらに減少する可能性がある

## 第2章 高校教育を取り巻く現状と課題

### ▶ 高校教育を取り巻く現状と課題

- 社会経済環境の変化
  - ・デジタル・グローバル化等、必要となる知識・能力の変化
  - ・成年年齢の引き下げ
- 県立高校の現状と課題
  - ・生徒の教育的ニーズに応じた学びの多様化
  - ・地域産業を支える人材育成に向けた産業分野の学びの確保

## 第3章 高校教育の創造的な再構築に向けた考え方

### ▶ 基本理念

- ①全ての生徒の可能性を最大限引き出す質の高い高校教育を実現するため、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。
- ②学校に生徒を合わせるのではなく、興味・関心や希望に応じて生徒が学びを選べる、生徒を主語にした高校教育を実現する。
- ③この実現に向け、少子化の急速な進行等の社会経済環境の変化を直視しながらも、魅力的な教育環境を整えるため単なる数合わせではなく、県立高校の創造的再構築を行う。

### ▶ 基本方針

- ①県内どこに住んでいても生徒の興味・関心や多様な進路希望に対応できる教育機会を確保する。
- ②スクール・ミッションの再定義を行い、各校の特色を強く打ち出すことで、生徒に合った、質の高い学びの機会を提供する。
- ③少子化の進行による生徒数の減少や学校の小規模化の中でも生徒が切磋琢磨し、刺激し合うことができる環境を整える。
- ④デジタル技術を活用した学びと、対面によるリアルな学びを効果的に組み合わせ、多様化・グローバル化する社会の中で、主体的に課題に取り組み、未来を切り拓く資質・能力を育む新たな学びの環境を整える。
- ⑤地域資源を活用するなどして専門性・応用力を高め、より実践的に学べる環境を整備する。
- ⑥多様な状況の生徒、配慮や支援が必要な生徒が取り組みやすい環境づくりを進める。

### ▶ 学校配置及び学校規模の考え方

- ①圏域の見直し(7圏域⇒5圏域)と学校間連携・オンラインによる教育空間の拡張
- ②普通科改革の推進や拠点校での進学に対応した教育支援の充実
- ③学校・学科間連携による専門学科における多様な教育の提供
- ④圏域の実情に応じた生徒の多様な生活・学習スタイルに対応した高校の配置
- ⑤通学困難地域における小規模校の存置又は通学・移動手段の確保  
⇒人口減少を見据え、圏域ごとの必要学級数を設定する。



田尻さくら高校:遠隔授業配信

### ▶ 再構築後の姿

中部地区	・進学校と特色ある普通科、専門学科の基幹校を配置	中部地区以外	・圏域ごとに拠点校を配置 ・特色ある普通科や専門学科は、学校・学科の連携・併置も含め、地域の特性を考慮して配置
------	--------------------------	--------	------------------------------------------------------------

- ・地域の実情に応じた多様な学びへの対応 (idealスクール、インクルーシブ教育、通学困難地域の小規模校等)
- ・市立・私立高校と連携・調整しながら、県立高校が担う役割等を整理

## 第4章 高校教育の創造的な再構築に向けた取組

### ▶ 県立高校教育の質の向上の方向性

確かな学力の育成と安全・安心な教育環境の充実	多様なニーズに対応した教育の推進	教育DXの推進 (デジタルとリアルの融合)	地域と学校の連携・協働体制の推進 (全国募集など)
------------------------	------------------	--------------------------	------------------------------

### ▶ 時代のニーズに対応した高校の魅力化

～学校に生徒を合わせるのではなく、興味・関心や希望に応じて生徒が学びを選べる、生徒を主語にした高校教育の実現～

興味・関心や適性に合わせて学びたい	大学進学に向け切磋琢磨しながら学びたい	先端技術などの専門知識を学びたい	社会に出た時に役に立つ知識を学びたい
-------------------	---------------------	------------------	--------------------

多様なニーズに対応し、可能性を広げるための学習環境の整備が必要

大学や企業と連携した専門的な学び	地域の特性に応じた学科横断的な学び	実社会と結びついた知識の習得
オンラインを活用した他校と連携した学習	ピアグループの形成による学習	地域資源の活用など特色あるカリキュラム

### ▶ 多様な学びの在り方

<b>idealスクール</b> ・生徒の多様な生活・学習スタイルにフレキシブルな対応が可能 ・他地域への展開などによる支援の充実	<b>定時制・通信制</b> ・定時制の現状を踏まえidealスクールで取り組んだ実績の活用 ・ニーズを踏まえた、通信制高校(課程)の機能強化等	<b>特別な配慮や支援を必要とする生徒への対応</b> ・高校と特別支援学校の併置等によるインクルーシブ教育の推進 ・通級や別室支援等による学習や学校生活への支援の充実
-------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------

### ▶ 小規模校の学びの在り方

<b>オンラインの効果的な活用推進</b> ・小規模校における学びの質の確保に向けた、オンラインの効果的な活用	<b>地域連携や学校間連携の取組</b> ・地域と密接に関わる探究的な学びなどによる学校づくりの推進 ・学校間連携による学習機会等の確保
------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------

### ▶ オンラインの効果的な活用による教育空間の拡張

- ・オンライン教育センター(仮)の設置による学びの質の確保や生徒の多様な教育的ニーズに応じた教育環境の整備

## 第5章 将来構想の推進

### ▶ 家庭・地域・学校の協働の必要性と役割

- ・将来構想の推進に向けコミュニティ・スクールの仕組みを活用し、家庭・地域・学校が役割分担をしながら協働する。
- ・市町村との連携・協働を一層推進するとともに、企業や関係団体等との連携体制等を構築する。

### ▶ 持続可能な学校教育の推進

- ・社会に開かれた教育課程の推進
- ・全ての生徒の可能性を最大限引き出す質の高い教育を実現するための教職員の資質能力向上と働き方改革の推進
- ・構想の実現に向けて、ニーズを見極めながら外部リソースも積極的に活用するなど、必要な体制の確保に努める。

### ▶ 将来構想の推進に向けた適性な進行管理

- ・さらなる少子化の進行や国の制度改正などに応じて、必要な見直しを行う。
- ・将来構想の推進に向けた関係者による推進体制を構築し、進行管理を行う。